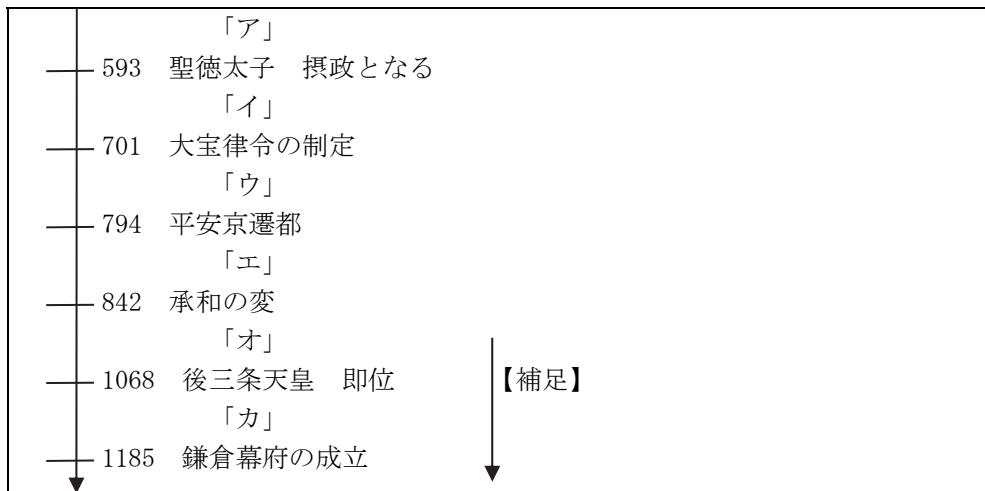

第1章 日本史

1. 古代（有史以前～平安時代まで）

(1) 全体像



(2) 「ア」のうち、有史以前

①縄文時代（今から 1 万 3000 年前～紀元前 4 世紀）

- ➡性的分業が見られる（男；狩猟・石器づくり、女；採集・土器づくり）。
- ➡縄文時代晩期には水稻耕作の跡がみられる。福岡の板付遺跡が有名。
- ➡身分の差や貧富の差はなかったとみられる。
- ➡アニミズム（精霊崇拝）が見られ、呪術的風習があった。
例）屈葬、抜歯、土偶、石棒
- ➡縄文時代の名のとおり、低温焼成した厚手で黒褐色で縄文がある縄文土器が作られている。
- ➡磨製石器を使用している、弓矢、釣り用に骨角器もあった。
- ➡住居は竪穴式。
- ➡遺跡としては、三内丸山（青森）、大森貝塚（東京）が有名。後者は明治時代にモースが発見した。
- ➡黒曜石やサヌカイト、ひすいの分布から広範囲の交易がされていたといえる。

②弥生時代（紀元前 4 世紀～紀元後 3 世紀）

- ➡水稻耕作と弥生土器（高温焼成、赤褐色）、青銅器を祭器利用、鉄器を武器と農具利用したことに特徴づけられる時代。
※北海道と南西諸島は稲作でなく続縄文文化、貝塚文化が続く。また他の地でも狩猟漁労あり。
- ※農具は最初、木製や石包丁に代表される石器だった。後に鉄に変わった。
- ➡余剰生産物の蓄積が貧富の差を生んだと言われ、埋葬物に差が生まれた。
- ➡遺跡としては、吉野ヶ里（佐賀）、唐古・鍵（奈良）、板付、荒神谷（島根、銅剣・銅鐸・銅矛で有名）。
- ➡中国史書や朝鮮半島の碑文に見る弥生時代～大和朝廷初期は下図 1 のとおり。

図 1 史書・碑文にみる古代日本

漢書地理志 (紀元前 1 世紀)	倭は百余国に分裂。楽浪郡に遣使あり。
後漢書東夷伝 (1～2 世紀)	奴国王となる（「漢委奴国王」の金印）。師升は生口献上。倭国が大乱となった記述あり。
魏志倭人伝 (3 世紀)	邪馬台国連合発足（卑弥呼に「親魏倭王」の称号。卑弥呼は帯方郡に遣使）。
高句麗好太王碑文 (4 世紀)	倭の進出。しかし、高句麗に敗北。
宋書倭国伝 (5 世紀)	倭の五王の遣使（武が「安東大將軍」の称号）。
隋書倭国伝 (7 世紀)	小野妹子が遣隋使として隋へ。

- ➡弥生時代後半から大和朝廷の初期は、古墳の特徴を図 2 からおさえよう。

図2 古墳の時代的な特徴

	前期 (3世紀末～4世紀)	中期 (4世紀末～5世紀)	後期 (6～7世紀)
古墳の形態	多種多様 ※円墳・方墳・前方後円墳	前方後円墳の巨大化	群集墳 装飾古墳
分布	畿内～瀬戸内	全国へ広がる	全国に分布
副葬品	鏡・腕輪・農具	武器・馬具	日用品
埋葬者	司祭者的首長	武人的首長	有力農民
遺跡	箸墓古墳(奈良)	大仙陵古墳(大阪)	高松塚古墳(奈良)

(3) 「ア」のうち、有史後

大和政権(以下、朝廷)は、4世紀後半には成立していたとみられる。トップは後に天皇と称される「大王」である。

支配体制の特色として氏姓制度が挙げられる。これは、朝廷が、有力な豪族に、朝廷の職務や支配が認められた地名などを負う「氏」と、氏の職務や家柄などを示す「姓」を与えて支配体制に組み込むというものである。

ただ、豪族は私有地である田荘、私有民である部曲を持つことが許されており、その支配は、後に取り組みされた律令制国家が目指した中央集権制とは異なり、かなり分権的といえる。なお、朝廷の土地は屯倉、人民は名代・子代・田部である。

さて、6世紀に入ると、朝廷は崇仏論争や朝鮮半島にあった朝廷の勢力圏であった加羅を喪失するなどの動揺が度々起こった。その中で、権力争いに勝利した蘇我氏は大いに勢力を伸ばした。

蘇我馬子(551～626)のときには、崇峻天皇(553～592)と対立すると、暗殺してしまっている。もちろん、これによる失脚もしていない。これが物語るほどに、蘇我氏の力は絶大なものとなっていた。

朝廷は、蘇我氏の力をおさえながらも協調的に振る舞いつつ、天皇家の権力強化をも図る難しいかじ取りが求められた。これを行ったのが、次項に示した聖徳太子(厩戸皇子、574～622)である。